

令和8年度 外国人留学生選抜 経済経営学部 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題意図】

本問題は、行動経済学の基本的な理論（損失回避・確実性効果・サンクコスト効果）についての説明文を読ませた上で、読解力および情報処理能力を総合的に測ることを目的としている。特に、抽象的な理論と具体的な事例の対応関係を把握する力、ならびに本文全体の構成や主張の流れを整理する力を問う。

文章には「伝統的経済学と行動経済学の違い」「プロスペクト理論」「確実性効果」「サンクコスト効果」といった段階的な説明が含まれており、受験者は各理論の定義だけでなく、それがどのような場面に現れるかを具体的に理解しているかが求められる。これにより、語彙の理解に留まらず、文脈の中で概念を適切に把握し、適用できるかどうかを評価する。

また、文中で紹介される複数の選択肢（例：A/Bの比較）に対する人間の心理的傾向を把握し、合理的判断とのズレを読み取る力も測定する。これにより、単なる情報の拾い読みではなく、全体を統合して解釈する能力を確認する設問構成とした。

【解答の傾向】

問1 語彙知識の確認

語彙理解を問う選択式問題である。「合理的」「判断」「損失」などの抽象的語彙について、文脈に即した意味理解ができていないかを確認することを目的とした。概ね、文脈に即した意味理解ができていた。

問2 内容の正誤判断（情報の照合・取捨選択能力）

本文内のキーワード（損失回避）に関する内容理解と要約力を問うた問題である。定義文の再構成を通じて、記憶的理解ではなく概念理解ができていないかを確認することを目的とした。概ね、正しく正誤判断を行うことができていた。

問3

本文内のキーワード（損失回避）に関する内容理解と要約力を問うた問題である。定義文の再構成を通じて、記憶的理解ではなく概念理解ができていないかを確認することを目的とした。

解答の傾向として、内容理解は概ね良好だったが、要約表現の中に文法の誤りや不自然な表現が一部見られた。

問4 自己の経験の言語化（意見表出力）

受験者自身の経験に基づいて、行動経済学的な判断を振り返りながら意見を述べる論述問題である。文章内容を日常生活に関連づけて再解釈し、自己の価値観や判断基準を日本語で言語化する力を問うた。

本問題では、自身の経験を叙述することを求めている。しかし、法的に不自然な語順や主語と述語の不一致、指示語の不明瞭さ、接続詞の誤用などが見られる解答も見られ、思考内容の妥当性とは別に、文構成・接続の不自然さが全体の論述力にばらつきを生んでいた。

問5 比較・対照の理解

「伝統的経済学」と「行動経済学」の違いに関する記述式問題である。2つの異なる考え方を比較・対照し、文章全体の主張を構造的に捉える読解力を問うた。

本問題では、両者の相違点を「比較的对等に」記述することが求められるが、実際の解答では、記述のバランスを欠いたり、比較の構造が不十分だったりする傾向が見られた。

第2問

【出題意図】

本問は、日本国内の人口移動や住宅数の変化に関する複数の資料(表・グラフ)に基づく出題である。データの正確な読み取りと、その背景にある日本社会の課題への考察、および、それらの理解を適切に日本語で表現する文章構成力を問うた。

【解答の傾向】

問1 内容理解(資料読み取り)の確認

資料が示す内容を日本語で正確に理解できているかを問うものである。理解度は概ね良好であったが、一部、問題指示文に対応した資料を適切に参照できていないと思われる回答があった。

問2 記述式問題

複数の資料の背景にある日本社会の課題を挙げ、その原因と対策について記述する問題である。解答の傾向として、特に、地方都市の深刻な人口減少や、都市の過密化および地方都市の過疎化、少子化等を、日本社会の課題として指摘するものが多かった。一方、課題の指摘はできているものの、原因や対策については一般論に留まり、具体的な考察まで踏み込んだ解答は少なかった。また、語彙・文法等の日本語表現において適切でないものも多く、主張が正しく理解できないという課題が見られた。